

# 人に誇れる大きな工事に携わりたくて。工事費の積算を行う建築積算士の仕事

(取材日：2023年12月)

木内建設株式会社積算部積算課【主任：寺田尚美さん】

## 1.この仕事に就いたきっかけは？

中学生の頃、リフォーム番組の影響で「建築業界」に興味を持ちました。祖父が大工の仕事をしていたので、業界自体は身近に感じており、高校・大学は建築学科へ進学しました。

卒業後は、公共工事や大きな工事を請け負う企業に就職したくて、木内建設を選択。入社後は7年間、工事課で現場監督をした後、建築予算の仕事をやってみたくて、2年ほど前に今の積算課へ異動願いを出しました。



## 2.どんな仕事をしているのですか？

積算の仕事はあまり知られていないと思います。

設計図をもとに資材の必要量や材料費を出し、人件費などを加えた工事費用がどのくらいになるのか算出する仕事。

木内建設は、ビルやマンション、商業施設、ホテル、学校など比較的規模が大きな工事を請け負うことが多いですね。そのため、積算課では躯体部分と仕上げ部分で担当を分けています。内外装の拾いから始め、ひと通りの金額積上げまでできるようになり、現在は、躯体部分の積算を担当しています。

## 3.仕事の魅力はどんなところですか？

木内建設の場合は、ソフトに基礎や柱、梁などの図面から読み取った寸法、必要な材料や数量などを入力して各工事の数量を拾い出します。1案件に1か月くらいかかり、数字とにらめっこの作業が多いですが、ものづくりという点では、現場仕事と同じです。

また、一般住宅の場合、なかなか「この家は私が手がけたんだ」と言いにくいですが、商業施設やビルの場合は、家族や友人と見に行き、いろいろと話せるのも嬉しいところ。

ちなみに、完成した現場には、他物件の積算に生かすためにも視察に行きます。施工中に仕様が変わることも多く「こんな仕上げにしたんだ」と見るのもひとつの楽しみ。単価や手間などがどのように変更になったのか聞くことが多いですね。もうで化粧ノリや発色、コスパを確かめるような感覚や、服を試着して確かめる感覚に近いです。



## 4.何か資格や専門の勉強は必要ですか？

当社の場合、工事課から積算課へ異動する人は多いですね。積算するにあたり、資材や部位の名称を知っておく必要があります。現場監督の時期に「建築施工管理技士1級」の資格を取得することが多いので、その分、仕事に慣れるのも早いです。

また、私の場合、高校で「建築積算士補」の資格を取得したので、将来的には「建築積算士」の資格が取れば良いなと考えています。

## 5. 女性が少ない業界ですが、働きにくさはないですか？

積算課17人のうち4人が女性ですし、とても働きやすいです。工事課のときも周りが気を遣って接してくれていたのので、特に気になったことはないですね。

また、木内建設の場合、福利厚生や制度も整っており、男性でも育休をとるように推進している会社。たくさんの方が育休をとっているため、子育てと仕事の両立に理解がある方が多いですね。将来、自分が結婚・出産することになっても働き続けていけそうだなと思っています。

## 6. 後輩の方へのメッセージをお願いします。

建設業の中で女性でも働きやすい職種というと、現場監督や設計に目が生きやすいですが、積算などほかにもさまざまな職種がいることをしてもらえると嬉しいです。その世界に入らないとなかなか知り得ないかもしれませんが、地元の企業や産業にも意外にいろいろな業種があり、多くの職人が携わっています。

建設業といっても、住宅以外にも駅や学校、商業施設などもあります。ちょっと違った視点で見ると、ものづくりに対する見方が変わって面白いと思います。

